

福岡市

1 福岡市における孤独・孤立対策について

■ これまでの取組、課題、あるべき姿

- 複合化・複雑化した課題に対応し包括的な支援体制を構築するため、庁内関係課による「地域共生推進会議」を設置。近年の制度改正や、相談支援機関において、社会的孤立を背景として解決が難しい問題が増加傾向にあることなどの共有等を図っている
- 福岡市では、生活困窮、地域福祉、地域包括ケアなど、孤独・孤立対策に関する部門が別の課になってしまっており、課題だと認識
- 孤独・孤立は近い領域でも、各施策がバラバラになってしまうのが大都市の弊害。今回を機に、バラバラになっているものを一つにしたい

2 福岡市版孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの形成

■ プラットフォームの形成

- 孤独・孤立の関連領域が幅広いことを踏まえ、以下の取組みを総称して「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム」とした。
 - (1) 孤立死防止のための企業等との連携（ライフライン関係企業などが所属）
 - (2) 生活困窮者支援のためのプラットフォーム（社会福祉協議会などが所属）
 - (3) リーディングとなる、新たなコンセプトによる「つながりづくり」の推進

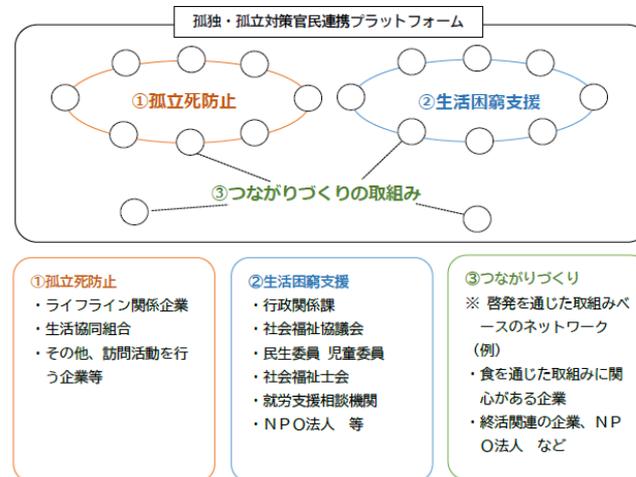
■ プラットフォームが果たす役割

- 関係領域が広範である孤独・孤立について、効果的に情報共有、啓発していくため、単に問題そのものを取り扱うのではなく、魅力ある「つながりづくりの取組み」と一体的に実施
- プラットフォーム関係者等での「孤独・孤立の問題に関すること」の共有
- つながりづくりの取組みの推進
 - ✓ リーディング事業として、市が主導して広く協力企業を求め、「食を通じた多世代交流の居場所づくり」を企画実施する予定

■ 今後の関連する取組

- 福岡市HPに、新たに「孤独・孤立対策について」のページを追加し、関連する取組みを画像と共に記載する予定

■ 官民連携プラットフォーム組織図イメージ



■ 次年度以降予定している取組（案）

- 令和5年度は以下の取組を行った。このうち、（１）～（４）について、次年度以降も継続的に実施していく予定である。
- 生活困窮者支援とも関係が深い以下の取組について、適宜、共有を図るとともに、孤独・孤立を背景として生活困窮などの福祉課題を抱えた方の支援に向け、インフォーマルな社会資源開発の参考となる支援ニーズ等についての協議や、関係機関の取組みの共有を実施。

■ 取組内容

（１）生活困窮者支援のプラットフォームにおける報告、協議

- 下記連携、協働の取組み実施について適宜報告、協議を実施。
- インフォーマルな社会資源開発の参考となる支援ニーズ等についての協議や、関係機関の協働促進に向けた取組みの共有を実施。

（２）地域講座の実施【継続実施】

- 地域関係者に対し、孤立死の現場やセルフネグレクトについて伝え、見守りを啓発する地域講座を実施。
- この中で、生活困窮者自立支援センター等の支援情報を提供 ※令和5年10月～ 実施回数：8回、参加者数：232人

（３）福岡100PARTNERSとの連携【継続実施】

- 企業等の参画については、福岡市が保健福祉施策推進のテーマとしている、人生100年時代に向け、様々な主体と連携した取組みを図る「福岡100」の枠組みに、「見守り・交流」の区分を新設。
- 孤立死の疑いがある事案を発見した場合の通報に協力いただく「福岡見守るっ隊」協力企業26社を福岡100PARTNERSと位置付けるとともに、継続して企業の参画を図る。

（４）食を通じたつながりづくり【モデル実施中】

- 食を通じた交流について、独居の高齢者や多世代交流等を視野に、社会福祉施設やこども食堂実施団体に呼びかけを実施。
- 社会福祉施設において、食を通じたつながりづくりを実施する団体 2団体
- こども食堂において多世代交流を実施する協力団体 12団体登録予定
- 統一的な広報媒体を作成、提供することにより、一体感ある支援を実施

（５）シンポジウムの開催【適宜検討】※詳細は次頁

- 孤独孤立問題の啓発のためシンポジウムを開催



（２）地域講座



（４）食を通じた交流

地域共生シンポジウム～孤独・孤立とこれからのつながりについて考える～

【開催概要】

日時：令和6年1月12日（金）13:30～16:00

場所：福岡県立ももちパレス大ホール

参加者：福祉関係機関や民間企業などから約230名が参加

<基調講演>

「孤独・孤立とこれからのつながりについて考える」

講師：勝部 麗子氏/社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会
事務局長

<パネルディスカッション>

コーディネーター

馬男木 幸子氏/福岡市社会福祉協議会 地域福祉部長

パネラー

- (1) 速水 靖夫氏/NPO法人孤立防止センター 理事長
- (2) 行徳 収司氏/野芥校区社会福祉協議会 会長
- (3) 藤村 昌憲氏/特別養護老人ホームなの国 施設長
- (4) 安河内 悟史氏/西部ガス・カスタマーサービス株式会社
お客さま保安部 福岡西事業所 所長

【結果概要】 ※アンケート結果抜粋

- ・回答者のうち8割以上が、シンポジウムについて満足（5段階で上から2番目以上の満足度）だと回答。
- ・回答者の約7割が、シンポジウム参加後は周囲に孤独・孤立状態になっている人がいたら、何かしら関わりたいと回答。
- ・自由意見では、「地域のつながりを作るための様々なヒントを得た。私も実践したい。」「孤立者が増える現在では、こういった地域支援活動が進んでいくことが必須だと思った。まずは自身の一歩が必要だなと考えた。」のような前向きな声も多かった。

<基調講演>



<パネルディスカッション>



3 試行的事業の実施状況

事業名称	事業内容	目的・期待される効果	実施時期	発注先 (予算配分)
孤独・孤立対策グッズの作成 (のぼり旗)	リーディング事業である「食を通じた多世代交流の居場所づくり」の際に、孤独・孤立の啓発を図るため、のぼりを制作 (本事業で制作した旨の文言入り)	孤独・孤立対策の普及啓発	2023/10	フクハン (70,350)
孤独・孤立対策グッズの作成 (エプロン)	リーディング事業である「食を通じた多世代交流の居場所づくり」の際に、孤独・孤立の啓発を図るため、エプロンを制作 (本事業で制作した旨の文言入り)	孤独・孤立対策の普及啓発	2023/10	みやざき白衣 (95,250)
孤独・孤立対策シンポジウムの開催	孤独・孤立について、有識者の講演、パネルディスカッション、行政説明などを実施 (運営委託)	孤独・孤立対策の啓発	2024/1/12	株式会社ビジネスリファイン (1,420,000)
孤独・孤立対策シンポジウムの開催	上記シンポジウムの会場費	孤独・孤立対策の啓発	2024/1/12	福岡県立ももち文化センター (103,847)
孤独・孤立対策シンポジウムの開催	上記シンポジウムの機材レンタル料	孤独・孤立対策の啓発	2024/1/12	九州地区舞台芸術運営協同組合 (74,000)
孤独・孤立対策シンポジウムの開催	上記シンポジウムのパネリストへの謝金、交通費	孤独・孤立対策の啓発	2024/1/12	謝金 (79,000) 交通費 (22,330)
孤独・孤立対策グッズの作成 (のぼり旗) ※追加購入	リーディング事業である「食を通じた多世代交流の居場所づくり」の際に、孤独・孤立の啓発を図るため、のぼりを制作 (本事業で制作した旨の文言入り)	孤独・孤立対策の普及啓発	2024/1	フクハン (145,300)
孤独・孤立対策グッズの作成 (エプロン) ※追加購入	リーディング事業である「食を通じた多世代交流の居場所づくり」の際に、孤独・孤立の啓発を図るため、エプロンを制作 (本事業で制作した旨の文言入り)	孤独・孤立対策の普及啓発	2024/2	みやざき白衣 (127,500)
孤独・孤立対策HP用の画像作成	孤独・孤立対策の取組を発信するために、市HPに掲載する画像を作成	孤独・孤立対策の普及啓発	2024/2	西日本高速印刷 (210,000)
			計	(2,347,577)

○参考 普及啓発グッズ

のぼり旗



エプロン

